



過去と現在を繋げる炎の軌跡

長野県
支部
だより

長野県支部のある上伊那地域にはマンドと呼ばれる伝統行事があります。

マンド(万灯)とは、お盆の火焚き行事のひとつで、迎え火や送り火のことをいいます。また、子供たちが火をつけた麦わらを振り回すことを、マンド振りや振りマンドと呼んでいます。

これはお盆の夜に子供たちが広場などに集まって振るもので、先祖の霊を迎える8月13日の「迎えマンド」と、再び彼岸へと送る8月16日の「送りマンド」は、驚きとともにきっと忘れられない夏休みの思い出となることでしょう。



このマンドは、昭和30年頃までは特に盛んに行なわれていたようです。そしてこの伝統行事は今も受け継がれ夏の夜を焦がします。

暗闇に映える炎の軌跡には、彩豊かな花火とはまた違った美しさがあり、見る人を引き付ける力があります。